

月惑星研究会関西支部通信 No.115 号 Web 版

2025 年（令和 7 年）12 月 14 日開催分

2025 年最後の例会になりました。参加者は 11 名で、終了後は忘年会を行いました。この例会には、久しぶりに病み上がりの風本さんが参加されました。また、神戸の中田さんも来られ、10 人以上の、支部例会としてはにぎやかな例会でした。

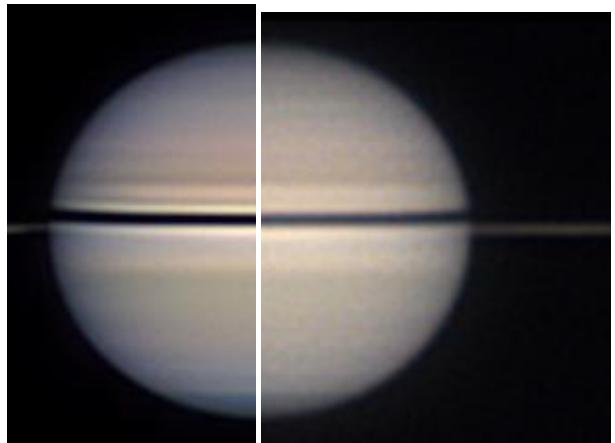


1 土星の近況（安達）

(1) アーティファクトでできたベルト

今シーズンはリングが細くなる年で、リングをねらった観測が、いつもよりも大幅に増えて、様子がよくつかめるようになりました。しかし、土星本体の模様は、目立った縞も暗斑などの出現も少なく、寂しい様子になっています。集まってきた土星の画像を点検すると、存在しないベルトがアーティファクトでかなり出ていることが気になります。

前回の例会の時に、どれが本物で、どれがアーティファクトかを熊森さんが紹介されていましたが、かなりきつく見えるものがあるので、改めて確認しました。（下図）



左右の画像を見比べると、左の画像にはリングのすぐ上に目立った細いベルトがありますが、右の画像にはそのベルトはかすかにしかありません。

実際にはこの部分にはベルトはないのですが、画像にはどうしても出てしまいます。熊森さんによれば、これは画像である以上、避けられないことだそうです。そのため、実際には存在しないベルトが作りだされてしまっているわけです。

土星を撮影して、観測報告をするときは、こう

いった偽模様の表現が目立たないように慎重な画像処理をする必要があります。

(2) 過去の土星のリング消失について

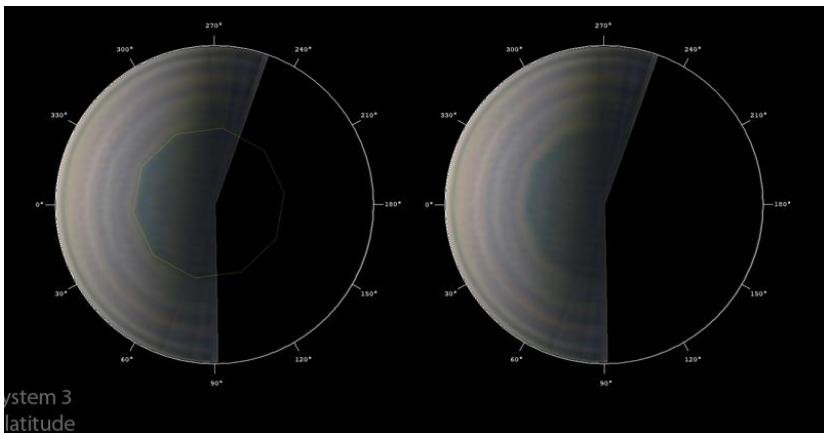
今回の土星のリング消失に対して、前回は 2009 年に起こりました。しかし、この年は見えなくなつた時が、土星の合に重なり、詳しい様子を見ることができませんでした。HPを見るとその時の画像が出でますが、リングが見える見えないというよりも、ボケボケの状態で、リングの状態を評することが困難だったことが分かります。

その前は 1995 年の事でした。この時は完全に見えなくなつた時があり、安達が眼視観測をしていて、その記録が残っていました。スケッチをプレゼンで映し出して、その様子を説明しました。見えるか見えないかの限界状態でしたから、微妙な見え方のスケッチがいくつもできたことを紹介しました。

次回の消失の時は、今から 15 年後になります。例会出席者でそれを見ることのできる人は、かなり限られているのじやないかと思いました。

(3) 北極域の多角形化

11月 11 日の観測報告に VincenzoMirabella さんの観測があつて、その中で、北極域を展開図にされたものがありました。画像は、報告していただいたものの一部をトリミングしています。



報告画像の一部を拡大したものが左図ですが、極域が多角形になっています。六角形かと思つて数えると 10 角形になつていて驚きました。

画像は縞模様にかなりのコントラストがついているのが分かりますが、こうすることに

よつて、はつきりしたようです。10 角形の大きさもかなり広く、今まで抱いていたイメージと違いました。1 日分の観測をつないで 180° 以上の範囲を処理したことによって、明確になっていきます。

よい画像が撮れそうな日は、土星を長時間狙うと、上のような画像を得ることができます。ぜひ挑戦していただきたいと思います。いつも10角形なのでしょうか。

2 来年の木星会議について

新潟で行われた今年の木星会議の時に、関西支部の安達からダイニック・アストロパーク・天究館で行えそうだったら天究館で開催したいと申し出ました。(前回の例会の時に紹介しました) その後、天究館と相談しましたが、宿泊できる人数が 30 人までとなる関係で、それ以上の参加希望があった場合の対策を考えています。(12月 20 日に見てきましたが、もう少しなら増やせそうです)

天究館の宿泊費用はレンタルの布団代だけになりますので、懇親会費だけの格安料金となります。30 人を超える人が出た場合は彦根方面の格安のホテルに送迎し、必要なホテル代は、木星会議の全参加人数で割り算して、参加者が負担するという方式がとれないかと、画策しています。これが可能なら安心して参加を募れます。

天究館とのホテル側との調整が要りますが、いつもよりも早い参加申込をお願いすることが必要に

なります。もしも天究館でできない場合、次回の木星会議は、本部と相談する必要が出そうです。

3 これから月惑星研究会のHPへの観測報告

私たちの使っている月惑星研究会のHPですが、近いうちに大改訂する予定で、準備が行われています。ここでは、かいつまんだ紹介をします。例会ではもっと突っ込んだところまで紹介しましたが、まだ確定ではなく、これから変更になる可能性があるため、この誌面では、今後混乱のない程度に紹介しておきます。本部の例会が21日に行われますので、その時の報告も読んでいただき、理解を深めていただけたとあります。読まれて、疑問に思われるところは、会の方までお知らせいただければ幸いです。

(1) 基本方針

今までの状態とこれからの違いを下記します。

従来・・・撮影画像を報告 → 米山・鈴木の両氏がHPにアップする
長瀬さんがデータのチェックを行う。

これから・ 画像を掲載できる形式にして「掲載準備フォルダ」に送信
本部でデータなどのチェックがすんだら自動掲載

掲載に向かない画像は、掲載せずに没にする。

(2) チェック

最近、AIを使っての過剰処理をしたものが送られてきたり、惑星面の状態の記録ではなかつたりするものがあります。こういったものをHPに載せることが起こらないように、チェックを残します。掲載画像を取り換える場合は、自分で送った日の観測を全消去して、新しいものを再送するという方法です。

海外のサイトも同じ方法をとっていて、日本だけがややこしい方式をとっていますが、今度は世界に習って改革するという方向性で動いています。

正式に決まれば、皆さんのご協力をよろしくお願い申し上げます。

4 参加者からの持ち寄り話題

(1) JAXA の見学記（薄出）

つくばのJAXAに見学に行ってきました。入り口を入ると自由に見学できる建物が2つと、セキュリティーの非常に厳しいところ（事前申し込み必須）がありました。自由見学のできるところはカメラでの撮影も自由で、各務原市の博物館よりも立派でした。

私は事前に申し込みをして、セキュリティーの厳しいところも見学しました。管制室も短時間の時間制限ではありましたが、見ることができました。

(2) 私の月面撮影（中田）

25cmF8のニュートンに同架しているFC-100にCMOS224MCをつけて撮っています。満月だと6コマで1枚になります。画像はシャープキャプチャーで処理しています。

(3) 今シーズンの土星画像（熊森）

自宅の観測所で撮影された土星の動画を映し出され、それから処理を済ませた土星画像の紹介をされました。



岩崎さん制作のタペストリー

今はなくなっていますが、宇宙画で有名な岩崎さんの作成された土星の衛星から見た土星の姿が手元にあります。元は A3 サイズの絵なのですが、それがこれになっています。現在のリングの様子に近いチュエーションで、よく見るとカシニやエンケの空隙も描かれています。また、C 環の淡い影も描かれ、かなり前に描かれたものですが、正確さがすごいです。

5 木星の近況（安達）

木星は衝に近くなっています、夜半前に観測ができるようになりました。冬になって日本の気流は悪くなりましたが、観測数は減らずに維持できています。

(1) GRS 付近

およそ 80° くらいの位置にいます。色は赤く、輪郭が見やすくなっています。特に北側の GRS Hollow が明るく、GRS がよく目立っています。前方のフックができたり消えたりを繰り返していて、NTr-B ができたりできなかつたりを繰り返しています。

(2) NEB(北赤道縞)

広かったベルトは 4 カ月くらい前から狭く、本来のNEB の幅になってきています。望遠鏡をのぞくと今までとは違って細く見えていますが、シーイングが良くなると、全周に 7 個ある白斑の位置よりもほんの僅か北側にNEB の色（赤茶色）の淡い shade (ベルト状の雲の広がり) が残っていて、NEB の広かった時の残骸のようになっています。

(3) 南半球の縞模様

南半球は SSTB の中央の SSTZ の明るい部分が目立ちます。SSTBn の淡いところや、STr-B の淡い部分など、SEB よりも南に微妙なベルトが何本も見えています。画像では問題ないものの、眼視ではそれらが微妙に見えて位置が取りづらく、眼視観測が非常に難しくなっています。

(4) EZ

EZ は目立ったフェストーンは非常少なく、眼視ではベール状に暗部が見えるだけで、観測は非常に困難になっています。安達は、ここ何カ月もの間、こんなに観測しにくい木星は初めてだと思っています。

(5) STB の濃化

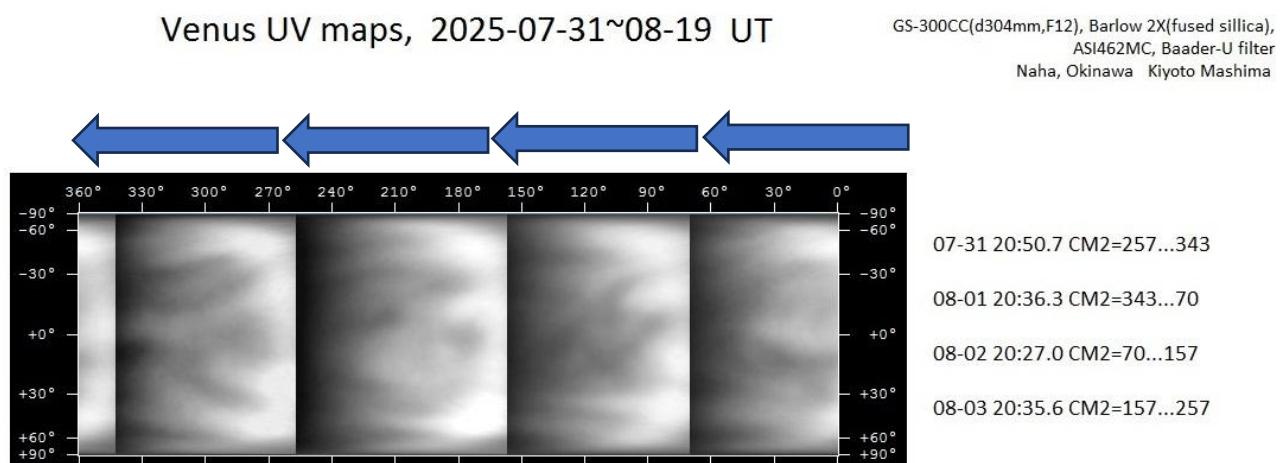
STB が黒く、幅の広がりも大きく、全周の $2/3$ くらいに広がってきています。永続白斑が健在だったころの姿になってきて、懐かしく思っています。今後どのようになるのか注目したいところで。一方、BA は悲惨な状態で、肉眼では事実上見えません。画像で見ると中央のオレンジ色の暗部があるので、中心の位置は分かりますが、肉眼では見えません。

6 金星画像から（安達）

沖縄の眞島さんから金星の画像が送られてきていて、それに対してどなたからも反応がなく、もつたいない状態になっています。月惑星研究会の ML では、画像の撮影は盛んですが、それを使った解析（簡単なものでもよい）が少ないので、残念だと思っています。木星や火星と違って宝の持ち腐れ状態が長年続いているわけです。そこで、安達が分かる範囲で調べてみようと思い立ちました。

金星の1日は地球時間の117日になっています。ところが、雲の動きは猛烈に速く4~5日で一周回っています（スーパーローテーション）。眞島さんの報告は下のようになっていました。まとまった画像は3回送られてきています。次のページの一番上の画像は、送られてきた組み写真の一部を切り取りました。青色の矢印は、 360° を4分割したものですが、スーパーローテーションの4日に分けたものと考えてください。すなわち、→の下は、同じエリアの雲を見ていると考えられます。

風の動きは日中の事ですから、赤道から極方向へ流れていることがすでに分かっています。この



ことを頭に入れて、上記4日分の雲の様子を見ると、うまく同定できるわけではないものの、撮影を続ければ、何かの特徴が見つかりそうな気がします。前から書いていますが、金星の撮像は、雲の映る範囲が広い半月以上のふくらみで撮ること（視直径は小さいです）が重要だと思います。眞島さんが続けてくださることや、撮影される人が増えることを願います。

7 その他

(1) 関西支部振込先

ゆうちょ銀行 00940-6-132972
月惑星研究会 関西支部

(2) 次回例会

2026年3月8日(日)

2026年6月14日(日)

いずれもアスニー山科2Fです。よろしくお願い申し上げます。